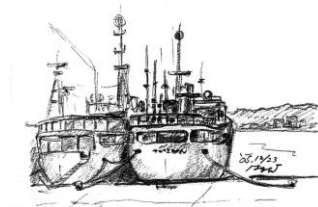


ビキニ被災支援 室戸の会

ニュース 2023 年 11 月 30 日 No.55

発行 ビキニ被災を支援する室戸の会 太平洋核被災支援センター
連絡先 事務局 宿毛市 088-066-1763(山下) 室戸の会 0887-35-8725(濱田)



被ばくの不安に寄り添うこと・後世に語り継ぐこと

11/7 ビキニ関連健康相談会(室戸)がおこなわれました

2014 年より高知県健康対策課が主催して「ビキニ環礁水爆実験に関連し健康不安を抱かれていますの方のための健康相談会」がおこなわれています。企画の概要は「ビキニ環礁水爆実験に関連して健康不安を抱かれています方及びその家族の不安軽減を図るため、地域の医師等による健康相談及び健康講座、また、交流会を実施する。」というもので、2014 年には室戸や幡多、高知市でも行われました。一昨年には高知市でシンポジウムがおこなわれましたが、今年は 11 月 7 日と 8 日、室戸と土佐清水で行われました。室戸で行われるのは久しぶりのことです。

参加者は健康対策課からは皇子も含めて 5 名、室戸市は保健師さんが 2 名、元船員さんやご家族の方は 4 人、「室戸の会」からは 2 名が参加しました。

◆内容は次のようなものでした

(1)川内 健康対策課課長挨拶

相談会に来ていただきありがとうございます。しばらく中断していましたが昨年度より再会できました。核実験で被ばくされた方は数多くいます。不安に寄り添う形で継続していきたいと考えています。また、後世に語り継ぐことも必要だと思います。その意味で昨年はシンポジウムもおこないました。

昔のことなので知らないことも多いので、いろいろと教えていただけたらありがたいです。

(2)講師による講演（菅沼成文氏 高知大学医学部環境医学教室 教授）

○自己紹介

環境医学を専門としてやっています。病院では自然放射能より大きな放射線装置を使っています。ビ

キニの話は初めてですが、勉強してきました。よろしくお願いします。

○ビキニのこと

久保山愛吉さんのことや「すずのバラ」などいろいろな物語で受け継がれているようです。負の遺産としての世界遺産登録はビキニが初めてです。

水爆実験がおこなわれた場所は、中部太平洋のマーシャル諸島です。1946 年から、核実験は続けられていました。ビキニ環礁では 23 回、エニウェトク環礁では 43 回の実験が行われました。

○第 5 福

竜丸について

第 5 福

竜丸は、
1954 年 1
月 22 日



に焼津港を出港し、3月14日に焼津に帰港しました。船員の症状は、火傷、頭痛、脱毛など急性の放射能の影響を受けた症状がありました。即刻、東大病院などに入院しました。全身 1.7 Gy～6.9 Gyの被爆をしていると言われています。そして、大量の輸血で急性肝炎をおこしました。病院のCTなどでは普通 20m Sv(0.02 Sv)です。ちなみに1999年の東海村のJCOの事故は1～3 Gyでした。※ざっくり1 Gy＝1 Svと換算

○周辺で操業していた船

爆心地から少し離れているとは思いますが、同じようなことです。

○確定的被曝とは、一定量以上被曝して、1%の人に影響が出た場合のことを言います。

○晩発性影響は、突然変異で起こる確率の影響で閾値以下では確率的なものはほぼ出ないと考えられています。閾値は0.5mGyとされています。しかし晩発性影響は後から影響が出る場合があります。

○まとめ

急性被曝はあったと考えられます。晩発性の健康への影響は広島、長崎の追跡調査があります。0.1 Gy以下の低線量での影響は確率的な問題。

(3)質問や意見交換

(1)自己紹介

○夫は若い時からずっと病気。

もう切るところはないくらい切っている。

○政治決着で放置されてきた。

弱者救済が急務。

○第2 幸成丸の元船員。15歳から乗っている。合羽を着ろと怒られていた。被爆かどうか分からないが、ガイガーが鳴ったことは覚えている。おかずはいつもマグロや魚を食べた。

○第5 海福丸に乗っていた。最初はミッドウェーの方で操業していた。その後南に下がってマーシャルの近くで操業した。水揚げの時にはガイガーカウンターで検査した軍手がすごい反応した。魚は沖に捨てた。歯ぐきから出血。

(4)意見交換

○第2 幸成丸も第5 海福丸もビキニ環礁の近くで操業し、海水を浴びて、スクールを浴びて、魚を食べている。被ばくしていないわけがない。内部被ばく、低線量の長期被爆が問題だと考えている。盲腸が多いのは関係ないのでしょうか。

○菅沼ー歯ぐきから出血というのは急性症状の一つ。ヘルニアは直接は影響があったとは思えない。WP 症候群も直接的な関係はないと思うが、早期発見できてよかった。盲腸についても、血管の炎症ということがあるのかもしれないが、食事などの問題や疲労の問題が大きいのではないかな。

○なぜ内部被ばくの問題が研究されないのか。疫学的な調査が重要と言われるがどのようにしたらよいのか。

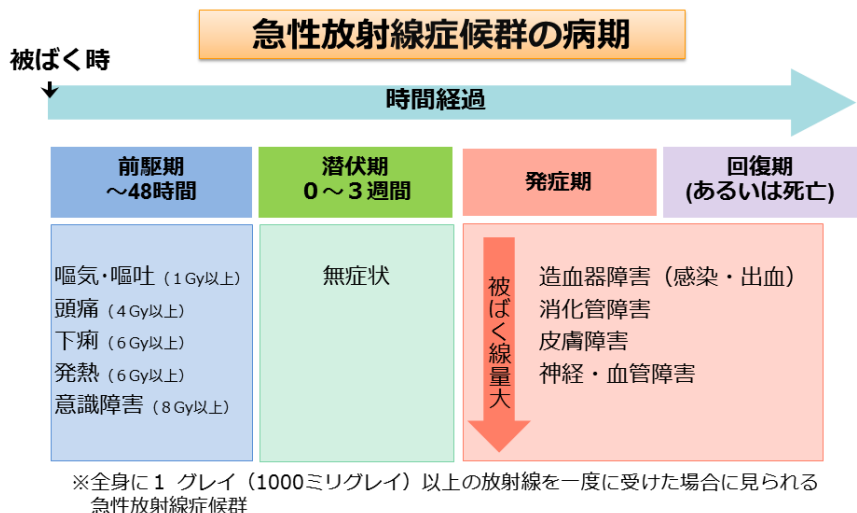
(5)個別相談

○室戸市の保健師さんが二人参加していたので、終了後面接相談できた。

(6)その他

確定的影響

急性放射線症候群



Gy : グレイ

出典 : (公財) 原子力安全研究協会 緊急被ばく医療研修テキスト「放射線の基礎知識」

○来年度のこと

- ・課長－来年も続けていく予定。場所については、別の地域ということも考えている。
- ・会の案内について。船員保険の方にも打診したが、今は難しいということだったとのこと。

◆感想

○参加者からの意見が出せて、現状を訴えることができたのはよかった。講師からは、確定的影響の話が中心だったが、その中で歯ぐきから出血など初期症状があるということはかなりの線量の被爆があったという話があったことは重要だと思う。

○行政のスタンスの問題

- ・もう少し太平洋核実験に因る被ばくということの理解を深めたい。この健康相談会を検診に発展させることが大事だと思う。
- ・核実験の補償など、条例化などにつなげてほしい。

◆土佐清水市会場では

「室戸岬船員同志会」 <その1> 同志会のはじまり

室戸岬には「室戸岬船員同志会」（以下「同志会」）と呼ばれている労働組合がありました。主に遠洋マグロ船の船員さんが加入していました。

まことに恥ずかしいのですが、正直なところ、私は漁師さんの労働組合があるということをつい最近まで全く知りませんでした。しかしよく考えてみれば、水産会社やマグロ船の船主さんに雇われて漁業労働をしているのですから、労働組合があるのは当たり前のことです。同志会には、最も多い時で約 2500 人の船員が加入していました¹。

いつからそういう組織が出来ていたのかと思います。「室戸岬町史」には次のような記述があります。「私たちの郷土では、大正の初めころに、船員の文化団体が出来、発動機の研究などが主な目的で、室戸岬船員同志会をつくり、会長は宮崎喜代太であった」²。驚いたことに、大正時代にすでにその萌芽があったということでしょう。「船員の文化団体」とか「発動機の研究」という表現から、当時の人々の漁業技術の向上に対する思いを感じることができます。すこし補っておきますと、大正時代の後半に「室戸岬船舶職員同志会」という会がつくられています。このことは「同志会」の発行する機関誌「遠洋」が創立十周年記念特集を組んだ中の「教育活動の方向とその歴史」という論文に記されているものです。論文では「室戸岬船舶職員同志会」が「同志会」の「前身」とし、「実に教育による漁業の振興を狙ったものであり、この点、他の漁業労働者の組織とは違った大きな特質を輝かしい伝統として今日の子弟たちは受け継いでいる」³として、「同志会」の特徴を漁業技術向上と教育に主眼を置いているのだと表現しています。

参加者は元船員 4 人、支援者 4 人の計 8 人でした。土佐清水市では、挨拶、講話の後、元四万十診療所 医師・佐沼興一氏によって一人一人の健康相談がされ、その合間に、太平洋核被災支援センター事務局員が手分けして生活相談を行いました。94 歳の横山幸吉さんは病気がちだが「料理は自分で作る。野菜は畑で 7 種類作っていて、今日は生ネギ 300 本を植えてきた。毎日、新聞も読む。」と誇らしげに語ってくれました。また、谷脇壽和さんは「今日は、皆さん集まってくれて感謝しています。これで切らずに続けてください。」と発言しました。今回の健康相談会は看護師さんによる家庭訪問の約束という成果がありました。しかし、元船員を車で搬送するなど太平洋核被災支援センターの協力があって実現できたともいえます。実際、幡多では会場までの移動が困難な元船員が多く、県委嘱の医師が家庭訪問する方式にできないか、などの課題があります。



「室戸岬船舶職員同志会」がいつ結成されたかは明確ではないですが、論文中には「大正 11 年以降における宮崎先覚者に指導された室戸岬船舶職員同志会は…」とありますので、大正 11 年頃に結成されたと考えてよいのではないかと思います。室戸岬では水産教育が早くから盛んで、1906(明治 39)年に津呂小学校の高等科に水産科ができ、1922(大正 11)年には津呂水産補習学校がつくられています。この津呂水産学校の教官には東京水産講習所で学んだ教官が赴任しており、全国レベルの本格的な技術教育がおこなわれていました。宮崎喜代太は神戸の発動機会社で学んで帰ってきてこの学校で教鞭をとっています⁴。大正 10 年には「日本海員組合」が結成されていますが、そのような情報も入ってきていたことは当然考えられます。

その後アジア・太平洋戦争で室戸の漁業は壊滅的な打撃を受けます。漁船のほとんどが徴用船となり、終戦後、室戸岬に帰ってきた船はわずか 9 隻でした。しかし、町民や漁師たちはたくましく、わずかに配給されていた漁網と物置に残されていた釣り針で徐々に操業をはじめました。そういう中、「室戸岬船員同志会」が結成されます。「遠洋」No.92 には次のように記載されています。「想えば、昭和 20 年 10 月 15 日、室戸岬王子宮において、一部有志が集まり、“船舶職員同志会”という幹部の機関を『働く全船員の労働組合』にしようではないかと、敗戦の混乱と漁業がカイメツしたなかから会が、今や“近代化”と取り組む時期を迎えた事は、“団結”と“前進”と“良識”が支えになったものである⁵。この文章は、1962(昭和 37)年の定期大会に提案された「一般活動方針について」の前文として「遠洋」に執筆されています。近代化の大きな波は、戦後の大変な時期を乗り越えてきたのだから、きっと乗り越えられるという思いが現れているように読めます。戦後の大変な時期、すべての船員の良識と団結で必ずや復興させていこうという思いが「同志会」という形になって表れたのでしょうか。この時の会長は前田米治でした⁶。

¹ 「船員単位労働組合基本調査」(1964 年『運輸白書』)では 2450 人とされている。

² 安岡大六著「室戸岬町史」(高知県室戸岬町 年 194 頁)

³ 「教育活動の方向とその歴史」(『遠洋』No.14 室戸岬船員同志会機関誌 1955 年 10 月 1 日 44 頁)。ちなみにこの論文は無署名。

⁴ 室戸岬鯉船主組合「波濤を越えて」(高新企業(株)出版部 1974 年 3 月 31 日 50 頁。)

⁵ 山村庄資「漁業の方針と会の近代化」(『遠洋No.92』室戸岬船員同志会機関誌 1963 年 5 月 1 日。14 頁)

⁶ 安岡大六著「室戸岬町史」(高知県室戸岬町 1953 年 12 月 194 頁)



中満国連事務次長 日本に核兵器禁止条約締結会議へ参加を訴え

核兵器禁止条約の第 2 回締約国会議が 11 月 27 日ニューヨークで開幕します。国連軍縮担当上級代表の中満泉事務次長は、核の脅威が高まる中「世界の大多数の国々が核軍縮を求めている。その声に焦点を当て、政治的な圧力を強める非常に重要な場になる」と期待を寄せました。そして、条約に反対する日本や核保有国には、オブザーバー参加など「建設的な対話」を促しました。中満事務次長は 2022 年 5 月におこなわれたビキニデー in 高知 2022 にビデオメッセージを送ってくれました。

広島・長崎そして漁業者も

赤十字国際委員会の若者代表として参加した高垣慶太さんは「広島、長崎の原爆被害の他にも米国による太平洋での核実験で日本の漁業者が被爆したことを伝えました。高垣さんは、さらに風評被害を恐れて被ばくを明らかにしなかった漁業者もいたと説明し、「核実験の近隣だけでなく、より広範な地域の人々や生態系に対する放射線の影響を調査することが重要だ」と訴えました。